



2017年4月9日

## 創業者 村田邦彦が永眠いたしました

1980年12月 福岡市・天神の一角で  
一軒のパスタレストランとして

村田が開いた「洋麺屋ピエトロ」は、当時では珍しい  
明太子や高菜など“和と洋”を組み合わせた  
個性あふれるスパゲティメニューで

行列のできる店となりました

スパゲティの茹で上がりをお待ちいただく時間に

出していたサラダのドレッシングが

「野菜嫌いの子供が喜んでサラダを食べるようになる」と

口コミで少しずつ評判が広がり

今日では国内外で愛されるまでに成長いたしました

創業者 村田が、その一生をかけて作り上げた

“ピエトロ”というブランドを

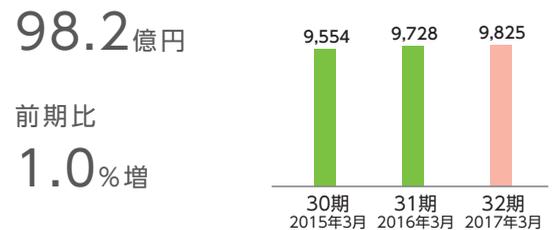
これまで支えてくださった株主の皆様への

心からの感謝とともに、「ピエトロ物語」として継承し

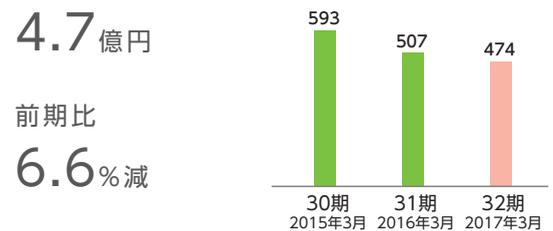
さらに発展させてまいります

## 財務ハイライト

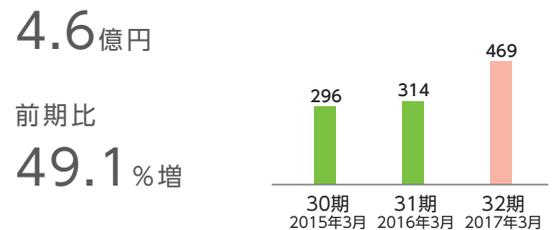
### 売上高 (単位:百万円)



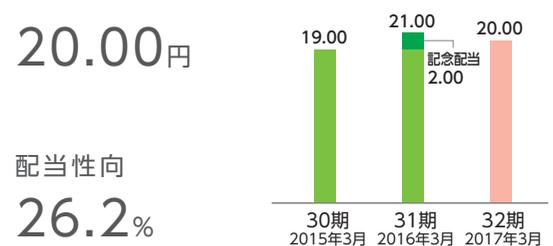
### 経常利益 (単位:百万円)



### 親会社株主に帰属する当期純利益 (単位:百万円)



### 1株当たり年間配当金 (単位:円)



## 株主の皆様へ

株主の皆様におかれましては、格別のご高配を賜り、厚くお礼申し上げます。  
この度、代表取締役社長に就任いたしました高橋でございます。  
創業者 村田の想いを継承し、これからの社業の発展に、誠心誠意、全力で  
努めてまいりますので、引き続きご支援のほど、よろしくお願い申し上げます。  
ここに当社2017年3月期の事業の概況についてご報告申し上げます。



代表取締役社長  
高橋 泰行

### 当期の経営成績

当連結会計年度におけるわが国経済は、企業収益と雇用・所得環境が改善し、緩やかな回復基調で推移いたしました。しかしながら、個人消費は依然として伸び悩み、海外経済の不確実性、金融資本市場の変動の影響等先行きが不透明な状況であるといえます。

食品業界及び外食業界におきましては、一般消費者の低価格志向・節約志向が根強い中で、天候不順の影響により仕入コストが上昇するなど、厳しい環境が続きました。

このような状況のもと、当社グループは、「おいしさと健康」を追求した高付加価値商品の提供をととして、ブランド価値向上に努めてまいりました。また、設備投資としましては、増産体制や経営効率化を目指した工場の増改築が完了しました。

当連結会計年度の売上高につきましては、食品事業は主力ドレッシングを中心に堅調に推移し、レストラン事業は店舗数が増加したことから、98億25百万円(前期比1.0%増)となりました。

利益面では、工場の減価償却費の増加及び積極的な販促活動による販管費の増加並びにレストラン店舗の新規出店費用の発生などにより、営業利益は4億96百万円(前期比5.0%減)、経常利益は増資に係る新株発行費の計上があり4億74百万円(前期比6.6%減)となり、親会社株主に帰属する当期純利益は、繰延税金資産の計上に伴う税金費用の減少により4億69百万円(前期比49.1%増)となりました。

### 今後の見通し

日本経済は、引き続き緩やかな回復が続く見通しではありますが、家計部門におきましては雇用者所得の改善幅は縮小し、消費者マインドの改善は停滞状態が予想され、エネルギー価格の上昇など予断を許さない状況であると想定されます。

2018年3月期の連結業績予想につきましては次のとおりであります。

食品事業は、主力ドレッシングである280mlシリーズの販売を強化してまいります。また、様々な食べ方の提案も含めた需要開拓に努めるとともに、価格とは一線を引いた販売戦略を図ってまいります。地域的には、北部九州地域及び拡販余地の大きい関東地域に、さらなるブランド強化を軸として販売強化を図ってまいります。レストラン事業は、既存店の活性化と顧客満足度向上を図り、個店管理を徹底し、収益改善に努めてまいります。

次期の業績につきましては、売上高は101億円(前期比2.8%増)、営業利益は6億円(前期比20.8%増)、経常利益は5億80百万円(前期比22.3%増)、親会社株主に帰属する当期純利益は3億10百万円(前期比33.9%減)を予想しております。